

イースターおめでとうございます！桜の便りよりも、卒業や入学よりも遅い、イースターになりました。巷では大阪万博が 20 年ぶり、50 年ぶりと賑わっていますが、イースターは二千年間続くお祭りです！はるかな時間に思いを馳せるとき、どんな悩みも神様に委ねることができる思いになるでしょう。

うつろな墓

イースターの出来事は、マグダラのマリアが、からっぽのイエス様の墓を発見した場面から始まります。パレスチナの墓所は、洞穴をくり抜いて作り、大きな石で蓋をします。山科の日向大神宮にある、天岩戸のようなイメージでしょうか。遺体は防腐処理して、そのまま安置します。ところが、その蓋が開けられ、中も空っぽだったのです。マリアはとっさに、誰かの仕業だ、盗まれた！と思いパニックになりました。

バイブルキャンプのお話を真面目に聞かなかった女の子が、次の日の朝、目覚めると部屋には自分しかおらず、さては自分だけがこの世界に取り残された！とパニックになり、集会室にかけていくと、みんな早天祈祷会をしていて、女の子も安心して、神様を信じた、という微笑ましいストーリーを思い出します。

通帳にお金がなかったら、パニックになるでしょう。朝起きて体が動かなかったら、びっくりするでしょう。家にいるはずの子供がいなかったら、発狂するでしょう。

物語の始まりは、そんな失意に追い打ちをかける出来事です。うつろな墓は、すでに悲しみを味わっている人の前に、時折ぱっくりと口を開けて、姿を表します。私たちは飲み込まれまいと、もがき、助けを求めて叫びます。そこに、神も仏もないと私たちは絶望します。でも、イエス様だけは、そこにこそおられます。それがどんなに心強く、救われることなのかを、復活の喜びは証しています。

待っていてくださる存在

マリアに続く登場人物は、主の弟子・ペトロとヨハネです。彼らは墓の中を調査しました。そして、かためられた垂麻布を見つけ、これはおかしいぞ、と勘付いたのです。なかなかお風呂から出てこないお父さんと呼びに行ったら、いない！でも、なぜか着替えも下着は置いてある、という状況はミステリーですね。

考えられることは、どこかに存在している、という可能性です。いやいや、それだけはありません、と、とっさに否定したくなります。でも、このピッタリの答えが出ない状況こそが、私たちに語りかける神様の、とっておきのメッセージなのです。

子どもたちが寝ている時から、布団をたたんで起き上がり、温かい朝食を用意してくれるお母さんのように、イエス様は、私たちが信じられないうちから、待っていてくださいます。そして、神様の愛があふれる天国の食卓を、犠牲を払って整えてくださっています。イエス様は今朝、語りかけてくださいます。「どうして泣いているの」と。